

水の大切さを考える

奈良県立国際中学校二年

藤原 汐里

「節水にご協力ください」家の外からこんなアナウンスが聞こえてきたのはつい最近の出来事です。私が住む奈良県で、二十一年ぶりに給水制限が発表されたとニュースでも取り上げられていました。このアナウンスを聞くまではあまり実感はありませんでしたが、自分の身近な出来事なんだとその時感じ、また少し不安にもなりました。これまで当たり前に使えて思っていた水が使えなくなると思ったからです。

日本は雨が多い国というイメージがありますが、この二〇二六年の記録的少雨は実に三十年ぶりと聞いて、すごくおどろきました。この原因は、日本をおおった寒気が南岸低気圧を寄せ付けなかったため、少雨になったということなのですが、地球温暖化の影響も考えられるそうです。雨の降り方が極端になり、一度に大

量の雨が降る一方で、長い間雨が降らない期間が増えているとも言われています。

水は私たちの生活に欠かせない大切な資源です。飲み水だけでなく、料理や洗濯、お風呂など、日常生活のあらゆる場面で使われています。しかし、その水が限られていることを私たちは普段あまり意識していません。水不足が深刻になると、農業にも影響が出て、野菜やお米の収穫量が減る可能性があります。そうになると、食べ物の値段が上がり、私たちの生活にも大きな影響が出てしまいます。

では、私たちにできることは何でしょうか。まず大切なのは、日常生活の中で無駄に水を使わないことです。例えば、歯みがきのときに水を出しっぱなしにしないことや、お風呂の残り湯を洗濯に使うこと、シャワーの時間を短くすること、食器をまとめて洗うことが節水につながります。一人一人の行動が小さなものでも、多くの人が意識して取り組みれば、大きな効果になります。また、我が家ですぐ実践したことは、

浴槽に貯めるお湯の量を少なくしました。

私は今回、水不足について考えることで、水の大切さを改めて感じました。これからは、日々の生活の中で節水を意識し、限りある水資源を大切にしていきたいと思います。そして、家族や友達にもその大切さを伝えていきたいです。私たち一人一人の行動が、未来の水を守ることに繋がると信じています。